

### 3 令和4年の主要な自殺の状況

#### (1) 令和4年における自殺の概況

自殺統計によると、令和4年の自殺者数は総数でみると2万1,881人であり、前年に比べて874人の増加となった。男女別にみると、男性は14,746人で前年から807人増加し、女性は7,135人で67人増加した。男女の構成割合は男性が67.4%、女性が32.6%と、男性は女性の約2倍であった（第1-12図）。

年齢階級別にみると、総数では「50～59歳」が4,093人と最も多く、次いで「40～49歳」（3,665人）、「70～79歳」（2,994人）の順が多かった。男女別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も多く、男性は2,848人、女性は1,245人となり、いずれも前年より増加した。男女別の構成比でみると、男性の構成比が最も大きくなるのは「40～49歳」で71.2%を占め、女性の構成比が最も大きくなるのは「～19歳」で41.9%であった。

職業別にみると、総数では「無職者」が1万1,775人と最も多く、次いで「有職者」（8,576人）、「学生・生徒等」（1,063人）と続く。性別の構成比でみると、「有職者」は男性が79.4%とその内訳のほとんどを占めており、「無職者」と「学生・生徒等」は男女比が約6対4であった。

無職者の内訳をみると、総数では「年金・雇用保険等生活者」が全体のおよそ半数となる6,074人であった。男女ともに「年金・雇

用保険等生活者」（男性：3,740人、女性：2,334人）がその半数であり、女性は「主婦・主夫」（1,166人）も多かった。

学生・生徒等の内訳をみると、総数では「大学生」が最も多い438人だった。男女別にみると、男性は総数同様「大学生」（305人）が最も多かったが、女性は「大学生」（133人）より「高校生」（146人）が多かった。性別の構成比でみると、いずれも男性の割合が女性より高かった。

事業主体別にみると、総数では「会社」が5,129人と最も多く、「自営業主」（1,677人）、「会社以外の法人」（560人）が続いた。

業務上の職位別にみると、総数では「正規の職員・従業員（部・課長以外）」が4,058人と最も多く、「自営業主」（1,404人）、「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託職員他」（1,375人）が続いた。

原因・動機別にみると、総数では「健康問題」が12,774人と最も多く、「家庭問題」（4,775人）、「経済・生活問題」（4,697人）が続いた。男女ともに「健康問題」が最も多く（男性：7,301人、女性：5,473人）、男性は「経済・生活問題」（4,127人）が、女性は「家庭問題」（1,890人）が2番目に多かった。性別の構成比でみると、「経済・生活問題」と「勤務問題」は特に男性の割合が高かった。

## 第1-12図 令和4年の分類別みた自殺者数と前年比較及び構成割合

総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	全体	■：男性 ■：女性
21,881	(+874)	14,746	(+807)	7,135	(+67)	全体	67.4% 32.6%
総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	年齢階級	■：男性 ■：女性
798	(+48)	464	(+38)	334	(+10)	～19歳	58.1% 41.9%
2,483	(-128)	1,672	(-27)	811	(-101)	20～29歳	67.3% 32.7%
2,545	(-9)	1,784	(-26)	761	(+17)	30～39歳	70.1% 29.9%
3,665	(+90)	2,611	(+92)	1,054	(-2)	40～49歳	71.2% 28.8%
4,093	(+475)	2,848	(+356)	1,245	(+119)	50～59歳	69.6% 30.4%
2,765	(+128)	1,862	(+121)	903	(+7)	60～69歳	67.3% 32.7%
2,994	(-15)	1,906	(+14)	1,088	(-29)	70～79歳	63.7% 36.3%
2,490	(+276)	1,558	(+235)	932	(+41)	80歳～	62.6% 37.4%
48	(+9)	41	(+4)	7	(+5)	不詳	85.4% 14.6%
総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	職業	■：男性 ■：女性
8,576	(+586)	6,811	(+533)	1,765	(+53)	有職者	79.4% 20.6%
1,063	(+32)	663	(+41)	400	(-9)	学生・生徒等	62.4% 37.6%
17	(+6)	12	(+8)	5	(-2)	小学生	70.6% 29.4%
143	(-5)	73	(-1)	70	(-4)	中学生	51.0% 49.0%
354	(+40)	208	(+39)	146	(+1)	高校生	58.8% 41.2%
438	(+4)	305	(+7)	133	(-3)	大学生	69.6% 30.4%
111	(-13)	65	(-12)	46	(-1)	専修学校生等	58.6% 41.4%
11,775	(+136)	6,915	(+162)	4,860	(-26)	無職者	58.7% 41.3%
1,175	(+39)	9	(+9)	1,166	(+30)	主婦・主夫	0.8% 99.2%
1,220	(+584)	988	(+447)	232	(+137)	失業者	81.0% 19.0%
52	(+3)	40	(+5)	12	(-2)	金子・配当・家賃等生活者	76.9% 23.1%
6,074	(+1073)	3,740	(+697)	2,334	(+376)	年金・雇用保険等生活者	61.6% 38.4%
18	(-12)	18	(-12)	0	(0)	ホームレス	100.0%
3,236	(-1551)	2,120	(-984)	1,116	(-567)	その他の無職者	65.5% 34.5%
467	(+120)	357	(+71)	110	(+49)	不詳	76.4% 23.6%
総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	事業主体	■：男性 ■：女性
1,677	—	1,431	—	246	—	自営業主	85.3% 14.7%
5,129	—	4,146	—	983	—	会社	80.8% 19.2%
560	—	355	—	205	—	会社以外の法人	63.4% 36.6%
185	—	115	—	70	—	法人でない団体	62.2% 37.8%
104	—	83	—	21	—	国	79.8% 20.2%
162	—	133	—	29	—	都道府県	82.1% 17.9%
260	—	202	—	58	—	市区町村	77.7% 22.3%
34	—	26	—	8	—	その他の地方公共団体	76.5% 23.5%
465	—	320	—	145	—	不詳	68.8% 31.2%
総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	業務上の職位	■：男性 ■：女性
1,404	—	1,274	—	130	—	自営業主	90.7% 9.3%
230	—	140	—	90	—	家族従事者	60.9% 39.1%
303	—	266	—	37	—	役員	87.8% 12.2%
238	—	228	—	10	—	部・課長級の雇用者	95.8% 4.2%
4,058	—	3,411	—	647	—	正規の職員・従業員(部・課長以外)	84.1% 15.9%
1,375	—	766	—	609	—	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託職員他	55.7% 44.3%
309	—	231	—	78	—	区分不詳の雇用者	74.8% 25.2%
659	—	495	—	164	—	不詳	75.1% 24.9%
総数	(前年比)	男性	(前年比)	女性	(前年比)	原因・動機	■：男性 ■：女性
4,775	—	2,885	—	1,890	—	家庭問題	60.4% 39.6%
12,774	—	7,301	—	5,473	—	健康問題	57.2% 42.8%
4,697	—	4,127	—	570	—	経済・生活問題	87.9% 12.1%
2,968	—	2,538	—	430	—	勤務問題	85.5% 14.5%
828	—	485	—	343	—	交際問題	58.6% 41.4%
579	—	392	—	187	—	学校問題	67.7% 32.3%
1,734	—	1,192	—	542	—	その他	68.7% 31.3%

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 令和4年における自殺状況の詳細構成

令和4年の自殺の状況をより詳しく把握するために、年齢階級及び職業別の構成をみると、「70～79歳」の「無職者」が最も多く2,560人であった。次いで「80歳～」の「無職者」が2,375人と多く、高年齢層の無職者による自殺が多かった。男女別にみると、男性は「50～59歳」の「有職者」が最も多く（1,738人）、

女性は総数と同様に「70～79歳」の「無職者」が最も多かった（1,007人）（第1-13図）。

構成割合についてみると、「～19歳」は「学生・生徒等」の割合が高い。男性は「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」及び「50～59歳」で「有職者」の割合が半数以上、女性は30歳以上の全ての年齢階級で「無職者」が半数以上であった。

第1-13図 令和4年の年齢階級及び職業別に見た自殺者数と構成割合

	有職者	学生・生徒等	無職者	不詳	計	構成割合			
						有職者	学生・生徒等	無職者	不詳
総数	8,576	1,063	11,775	467	計	39.2%	4.9%	53.8%	
	94	633	69	2	～19歳	11.8%	79.3%	8.6%	
	1,278	411	732	62	20～29歳	51.5%	16.6%	29.5%	
	1,495	12	972	66	30～39歳	58.7%		38.2%	
	2,148	7	1,432	78	40～49歳	58.6%		39.1%	
	2,123	0	1,863	107	50～59歳	51.9%		45.5%	
	936	0	1,772	57	60～69歳	33.9%		64.1%	
	402	0	2,560	32	70～79歳	13.4%		85.5%	
	100	0	2,375	15	80歳～	4.0%		95.4%	
0	0	0	48	不詳			100.0%		
男性	6,811	663	6,915	357	計	46.2%	4.5%	46.9%	
	67	366	30	1	～19歳	14.4%	78.9%	6.5%	
	907	285	443	37	20～29歳	54.2%	17.0%	26.5%	
	1,165	7	559	53	30～39歳	65.3%		31.3%	
	1,719	5	823	64	40～49歳	65.8%		31.5%	
	1,738	0	1,030	80	50～59歳	61.0%		36.2%	
	796	0	1,020	46	60～69歳	42.7%		54.8%	
	329	0	1,553	24	70～79歳	17.3%		81.5%	
	90	0	1,457	11	80歳～	5.8%		93.5%	
0	0	0	41	不詳			100.0%		
女性	1,765	400	4,860	110	計	24.7%	5.6%	68.1%	
	27	267	39	1	～19歳	8.1%	79.9%	11.7%	
	371	126	289	25	20～29歳	45.7%	15.5%	35.6%	
	330	5	413	13	30～39歳	43.4%		54.3%	
	429	2	609	14	40～49歳	40.7%		57.8%	
	385	0	833	27	50～59歳	30.9%		66.9%	
	140	0	752	11	60～69歳	15.5%		83.3%	
	73	0	1,007	8	70～79歳	6.7%		92.6%	
	10	0	918	4	80歳～	1.1%		98.5%	
0	0	0	7	不詳			100.0%		

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

さらに年齢階級及び原因・動機別の自殺者数をみると、ほとんどの年齢階級（総数及び男性の「～19歳」以外）で「健康問題」が多く、特に「70～79歳」は総数で2,491人であった。「健康問題」に次いで多いのは、男性は

「経済・生活問題」であり、特に「50～59歳」が1,091人と多かった。また、女性は「家庭問題」であり、「50～59歳」が383人と多かった（第1-14表）。

**第1-14表 令和4年の年齢階級及び原因・動機別にみた自殺者数**

		家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
総数	計	4,775	12,774	4,697	2,968	828	579	1,734
	～19歳	166	222	25	45	80	354	114
	20～29歳	351	947	499	517	315	219	241
	30～39歳	601	1,150	673	539	177	4	185
	40～49歳	906	1,838	1,049	815	147	2	250
	50～59歳	976	2,196	1,232	744	82	0	282
	60～69歳	586	1,828	705	226	16	0	203
	70～79歳	604	2,491	380	67	7	0	218
	80歳～	585	2,102	133	15	4	0	239
不詳	0	0	1	0	0	0	2	
男性	計	2,885	7,301	4,127	2,538	485	392	1,192
	～19歳	98	89	19	37	46	224	79
	20～29歳	221	475	428	398	163	163	172
	30～39歳	363	627	601	460	99	3	138
	40～49歳	555	1,059	929	709	99	2	198
	50～59歳	593	1,249	1,091	651	57	0	186
	60～69歳	364	1,044	640	208	13	0	137
	70～79歳	334	1,486	319	60	5	0	141
	80歳～	357	1,272	99	15	3	0	140
不詳	0	0	1	0	0	0	1	
女性	計	1,890	5,473	570	430	343	187	542
	～19歳	68	133	6	8	34	130	35
	20～29歳	130	472	71	119	152	56	69
	30～39歳	238	523	72	79	78	1	47
	40～49歳	351	779	120	106	48	0	52
	50～59歳	383	947	141	93	25	0	96
	60～69歳	222	784	65	18	3	0	66
	70～79歳	270	1,005	61	7	2	0	77
	80歳～	228	830	34	0	1	0	99
不詳	0	0	0	0	0	0	1	

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、原因・動機及び職業別の構成をみると、「無職者」の「健康問題」が最も多く8,986人だった。男女別にみても最も多いのは「無職者」の「健康問題」(男性：4,756人、女性：4,230人)だが、男性は、次いで「有職者」の「健康問題」(2,337人)、「有職者」の「勤務問題」(2,296人)が多く、女性は「無職者」の「家庭問題」(1,292人)、「有職者」の

「健康問題」(1,044人)が多かった(第1-15図)。

構成割合で見ると「健康問題」の70%以上は「無職者」であり、特に女性の「無職者」は77.3%と大きい。この他特徴的なものは、男性の「有職者」の「勤務問題」(90.5%)、「学生・生徒等」の「学校問題」(男性：93.9%、女性：97.3%)であった。

第1-15図 令和4年の原因・動機及び職業別にみた自殺者数と構成割合

	有職者	学生・生徒等	無職者	不詳		構成割合			
						有職者	学生・生徒等	無職者	不詳
総数	11,592	1,313	15,100	350	計	40.9%	4.6%	53.3%	
	2,006	171	2,544	54	家庭問題	42.0%		53.3%	
	3,381	304	8,986	103	健康問題	26.5%		70.3%	
	2,441	61	2,072	123	経済・生活問題	52.0%		44.1%	
	2,672	8	282	6	勤務問題	90.0%		9.5%	
	515	78	216	19	交際問題	62.2%	9.4%	26.1%	
	4	550	25	0	学校問題	0.7%	95.0%	4.3%	
	573	141	975	45	その他	33.0%	8.1%	56.2%	
男性	9,158	827	8,689	246	計	48.4%	4.4%	45.9%	
	1,486	109	1,252	38	家庭問題	51.5%		43.4%	
	2,337	149	4,756	59	健康問題	32.0%		65.1%	
	2,247	44	1,734	102	経済・生活問題	54.4%		42.0%	
	2,296	6	231	5	勤務問題	90.5%		9.1%	
	325	53	97	10	交際問題	67.0%	10.9%	20.0%	
	4	368	20	0	学校問題	1.0%	93.9%	5.1%	
	463	98	599	32	その他	38.8%	8.2%	50.3%	
女性	2,434	486	6,411	104	計	25.8%	5.2%	67.9%	
	520	62	1,292	16	家庭問題	27.5%		68.4%	
	1,044	155	4,230	44	健康問題	19.1%		77.3%	
	194	17	338	21	経済・生活問題	34.0%		59.3%	
	376	2	51	1	勤務問題	87.4%		11.9%	
	190	25	119	9	交際問題	55.4%	7.3%	34.7%	
	0	182	5	0	学校問題		97.3%		
	110	43	376	13	その他	20.3%	7.9%	69.4%	

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成